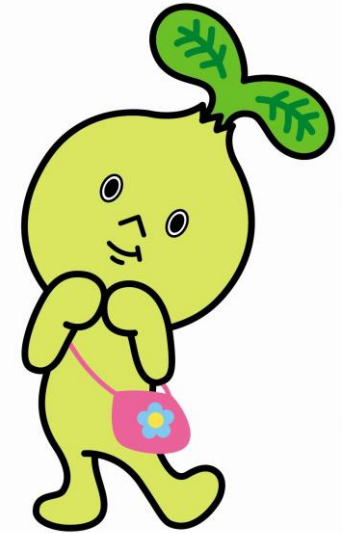


健康危機における ポピュレーションアプローチ

震災から10年間の保健活動で感じたこと

飯舘村 健康福祉課 健康係
主査(保健師) 齋藤 愛子



飯舘村公式キャラクター
アイタネちゃん

飯舘村の立地

福島県の北東部

阿武隈山系の北端

面積 230.13km²

東西 15.2km

南北 16.8km

阿武隈山系の高原

標高220～600m夏は涼しく、冬は降雪が少ないものの寒さが厳しい地域



東日本大震災前の飯舘村の風景



飯舘村の田園風景



飯舘牛(高級黒毛和牛)が特産

20ある行政区（自治会・町内会）を中心とした地域づくりを30年前から行ってきたことにより、地域コミュニティ（自治力）がしっかり機能している。

行政区が持つ地域力、実行力を基盤とした地域づくりを行ってきた。

このほかにも、重層的な地域コミュニティ（伝承文化、農業生産部会、婦人会、PTA、消防団等）が存在し村民は、その中で、互いに支え合いながら、暮らしてきた。

高齢者も、地域・家庭内での役割を持ち、生き生きと暮らしていた。

東日本大震災前の保健活動の様子



行政区単位での地域サロン



子育てサロンでの栄養講話

平成23年3月11日

「東京電力福島第一原子力発電所事故並びに東日本大震災」発生

【飯舘村の被害】

震度5強

家屋倒壊0件

瓦の崩落 約500件

死者1名（南相馬市で
津波に遭遇）

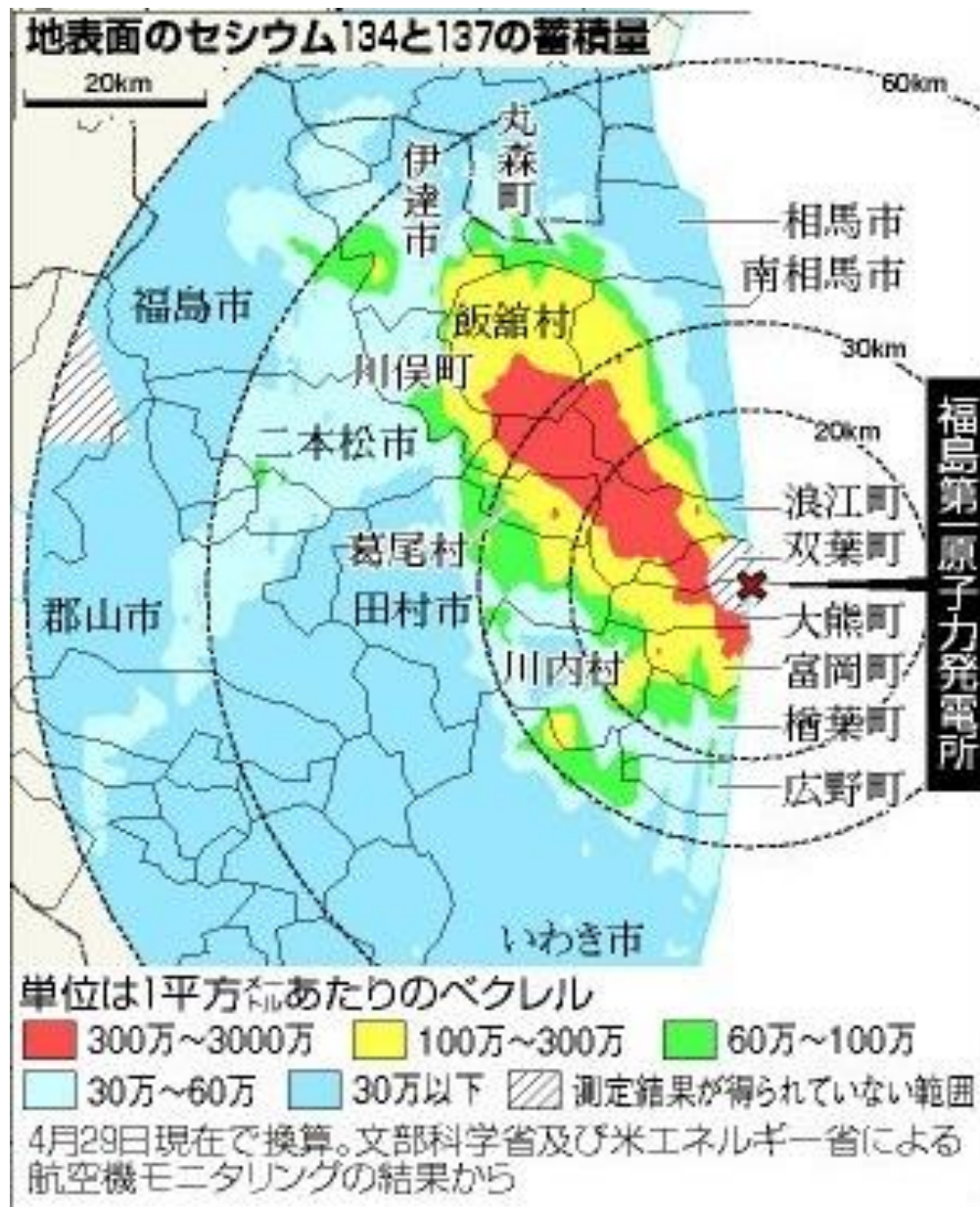


仮設放射性物質の蓄積

平成23年3月15日、福島
原発3号機が水素爆発

東南の風と雨・雪により
飯舘村に放射性物質が
降り注ぐ

午後6時、役場の放射線
計が毎時44.7 μ Svを観
測(最大値)



避難の状況

- 県外への自主避難者（550人）
子どもと母親、要介護者など
- 県借り上げ住宅（3,700人）
比較的若い世代（勤労・子育て世代）
- 公営宿舎、仮設住宅（1,750人）
高齢者が多い

1,900世帯⇒2,700世帯

家族が世代ごとにばらばらになった



県内9か所に仮設住宅

平成23年3月25日
放射線と健康に関する講演



平成23年4月13～16日
計画的避難区域指定の説明会



行政区長への説明会



公営宿舎・仮設住宅等新たに
設立された自治会での説明会



震災後の保健活動



子育てサロンでの放射線リスクコミュニケーション



仮設住宅集会所での放射線リスクコミュニケーション

震災後の保健活動

かわら版

発行所：健康リスクコミュニケーション推進委員会 事務局：新潟県産業技術センター 健康福祉課 電話：024-562-4216

2014 No.12

11月26日発行

健康リスクコミュニケーション推進委員会 事務局：新潟県産業技術センター 健康福祉課 電話：024-562-4216

道しるべ

特集 「村の中で働く」

平成26年6月現在、避難先から通って村内では42の事業所が操業しています。今回は村の働き世代に焦点を当て、村内での仕事の様子をご紹介します。

いいいたて暮らしの放射線 Q&A

「放射線を被ばくすると鼻血が出るの?」

避難生活のQ&A

子どもの輝く未来を応援するために...

小島 隆子 出口 貴美子

健康リスクコミュニケーション推進委員会



今の仕事があるかぎりここで働き続けたい

新潟電池製作所 福島工場
武田 茂さん

電池製作所で、部品製造のためのプログラミングを担当する武田茂さん。震災直後に家族を連れて栃木県へ一時避難しましたが、一週間後には単身で村へ戻り仕事を続けました。その決意にはどんな思いがあったのでしょうか。

震災前は3世代6人家族で暮らしていた武田さん。現在は妻と息子2人とともに旧松川小袋設住宅に入居。両親は近くの松川雇用促進住宅に住んでいます。両親は庭に花を植えるのを楽しんでいますが、

仕事が続けられることに感謝。一時避難中に情報がたたりすぎたのは、今後の暮らしのことで、いろいろあるのが浮かぶ中、仕事を続けるかどうか迷った時にしました。家族からは、「うちのこの期間に」と言われましたが、当時の私の部署では後継者が育っていないこともあり、業務を継承・再開する企業があるからと、村内を走る自動車や営業車が来店するといいます。「村で店を開ければ『またやれるな』と希望が持たれます。使い慣れた工場が仕事を続けたいです。」



「自分の趣味やリフレッシュ方法はあったとしても、避難先から活動が再開できるか、かかると疲れがたまりやすい体質も私にあれば、家族や仕事への責任感から働き続ける武田さん、会社が再開できることを信じています。」

高橋 匠さん 白石自動車整備工場
高橋 匠さん 里絵さん



お客様との信頼関係が一番大切です

白石自動車整備工場
高橋 匠さん 里絵さん

車検や故障車整備を行う白石自動車整備工場で、両親と、震災後に結婚した妻とともに働いている匠さん。2011年2月に前職を辞め、家業に従事し始めた矢先の震災でした。将来に不安を抱きながら村で操業を続ける匠さんの思いを聞きました。

父が養った店を守りたい。匠さんは、幼い頃から父の働く姿を見て育ち、いつか自分が会社を継ぐのだという思いを抱いてきました。震災後は放射線に関する情報が溢れて、たまたま不安を感じましたが、お客様のために店を開けなければと操業再開を決めました。震災後は、仕事の9割以上が土木業者や工務店、除染業者などの車となり木業者や工業系は減少しているため、将来への不安があります。「父が大切にしていた村のお客様が、遠くの新潟先から来て下さったときには、とてもうれしく感じます」と匠さんは話しました。



また、現在も村内で操業を継続・再開する企業があるからと、村内を走る自動車や営業車が来店するといいます。「村で店を開ければ『またやれるな』と希望が持たれます。使い慣れた工場が仕事を続けたいです。」

「またお願い」の言葉を感じたい。「いずれ村に帰りたい」と話す前年の希望叶えを挙げたいと匠さんは話します。匠さん夫妻は将来的な予定で仕事を考え、南相馬市で暮らしていますが、仕事はこれからも村の人たちを相手にと考えています。以前勤めていた村外の職場では、顧客と話す機会もなく膨大なノルマをこなす日々を送りました。その経験から、「父と同じように、村のお客さんと顔を見える関係で、整備の仕事をした」という希望があったと述べています。「これからお客様とよりよい信頼関係を築いていくような仕事をしていきたいです」と力強く話しました。

震災後の保健活動



仮設住宅で実施したよろず健康相談

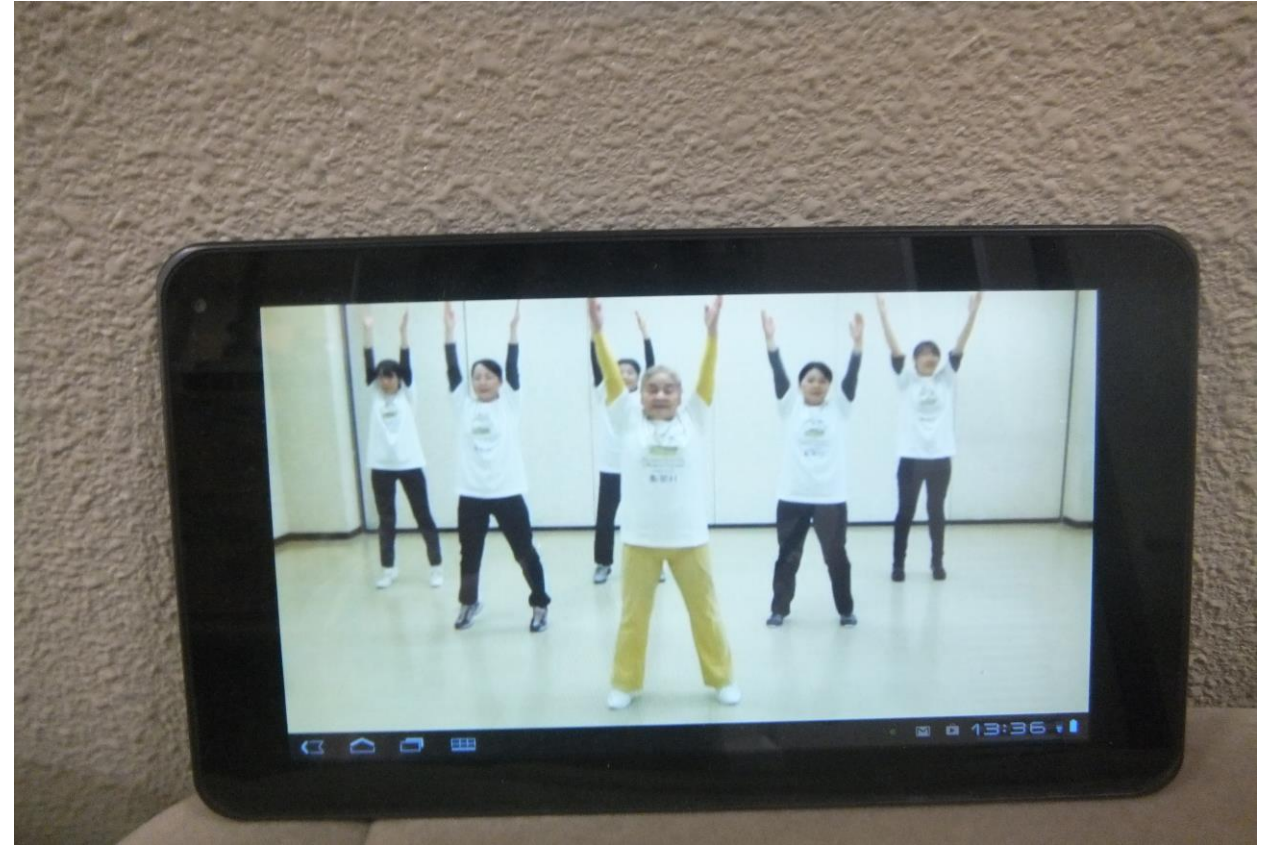


仮設住宅で実施した健康教室

震災後の保健活動



仮設住宅 ラジオ体操教室



ラジオ体操の配信

人口の推移

| | 平成22年4月1日 | 令和3年4月1日 |
|-------|-----------|----------|
| 人口 | 6,584人 | 5,168人 |
| 15歳未満 | 827人 | 443人 |
| 65歳以上 | 1,904人 | 2,056人 |
| 世帯数 | 1,967世帯 | 1,835世帯 |
| 高齢化率 | 28.9% | 39.7% |

【村内居住者】

1, 4 7 9 人
7 6 7 世帯

※15歳未満 41人

※65歳以上 849人

※高齢化率 57.4%

(令和3年4月1日現在)

避難状況（令和3年10月1日現在）

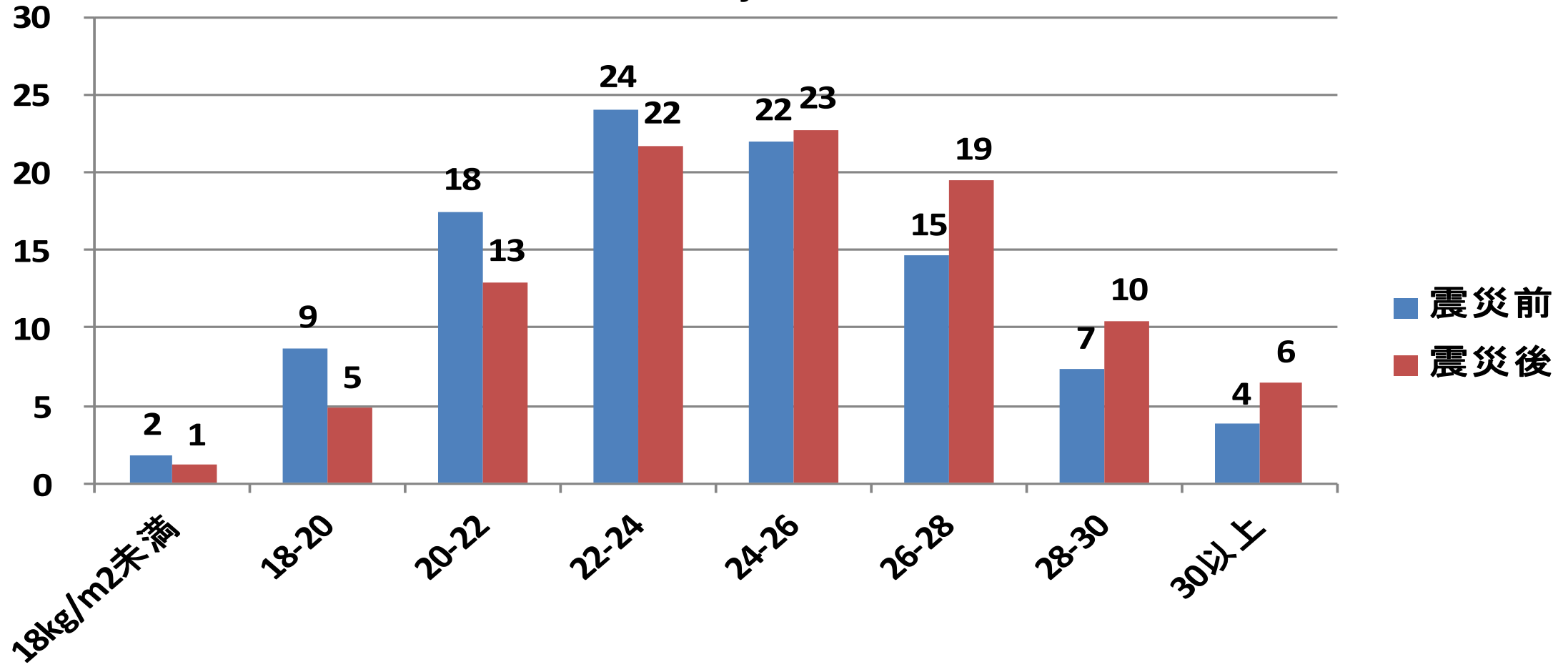
| 自治体名 | 避難人数 | 避難世帯数 |
|-------|-------|-------|
| 福島市 | 2,228 | 836 |
| 会津若松市 | 5 | 2 |
| 郡山市 | 37 | 19 |
| いわき市 | 9 | 7 |
| 須賀川市 | 2 | 1 |
| 相馬市 | 137 | 59 |
| 二本松市 | 72 | 28 |
| 田村市 | 9 | 4 |
| 南相馬市 | 309 | 143 |
| 伊達市 | 273 | 98 |
| 本宮市 | 6 | 2 |
| 国見町 | 1 | 1 |
| 川俣町 | 258 | 106 |
| 大玉村 | 8 | 4 |
| 南会津町 | 1 | 1 |
| 北塩原村 | 3 | 1 |
| 猪苗代町 | 4 | 1 |
| 西郷村 | 1 | 1 |
| 中島村 | 5 | 2 |
| 矢吹町 | 1 | 1 |
| 新地町 | 10 | 4 |
| 合計 | 3,379 | 1321 |

| | 避難人数 | 避難世帯 |
|--------|------|------|
| 復興公営住宅 | 198 | 120 |

| 都道府県名 | 避難人数 | 避難世帯数 |
|-------|------|-------|
| 北海道 | 22 | 10 |
| 宮城県 | 33 | 19 |
| 山形県 | 7 | 4 |
| 茨城県 | 6 | 5 |
| 栃木県 | 17 | 8 |
| 群馬県 | 3 | 2 |
| 埼玉県 | 25 | 12 |
| 千葉県 | 17 | 9 |
| 東京都 | 22 | 16 |
| 神奈川県 | 13 | 6 |
| 新潟県 | 2 | 2 |
| 静岡県 | 3 | 2 |
| 大阪府 | 1 | 1 |
| 岡山県 | 5 | 2 |
| 鹿児島県 | 1 | 1 |
| 合計 | 177 | 99 |

震災後に健康状態が悪化

震災前後における肥満度（body mass index）の推移（全体）



平成25年4月「飯館村における震災前後の健康診査結果の変化に関する分析結果報告書」より

震災前後において、体重増加に伴い、高血圧、糖尿病型、脂質異常者の割合が増加しており循環器疾患発症のリスクが高くなっている可能性があります。

避難生活による身体活動量の低下、心理的ストレスの増加がこれらの変化の要因と考えられますが、今後は食生活についても詳細な検討を行い、住民の疾病対策、健康維持・増進に役立てていく必要があると思われます。

震災後の保健活動



震災後の保健活動



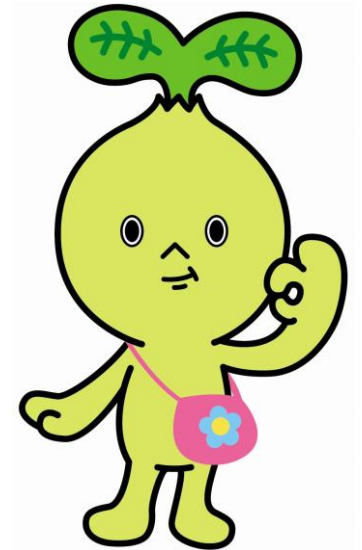
「健康危機におけるポピュレーションアプローチ」 を実践するために大切だと感じたこと

1 日頃からの保健活動が大切

- ・ その地域にはどんな人が住んでいてどんな生活を送っているかを自分の足で歩いて知る
- ・ 様々なデータを活用する

2 日頃からの住民との関係づくりが大切

- ・ 保健師の役割を知ってもらう
- ・ 専門的な内容をその方の生活や理解度に合わせて分かりやすく伝える（そのためには日々勉強…）



震災直後から現在まで 多くの支援に感謝申し上げます



道の駅 まいでい館



ふかや風の子広場